



大聖堂見学の皆様へ

アントワープ大聖堂へようこそ。私ウィルフリート・ヴェルハールトが大聖堂の全スタッフを代表して挨拶申し上げます。この華麗な建築はネーデルランドで一番大きなシック様式の教会というだけではなく、アントワープの栄光と繁栄、同時に苦難の歴史を伝える物語そのものでもあります。

それはここに壮麗な教会を建てるという夢を現実のものとした人々、またはここで神と隣人との絆を深めた人々の物語です。すでに 1000 年以上の歳月にわたり聖母マリアはこの大聖堂のそしてまたアントワープ市の守護聖人として君臨してきました。毎年何千も人々がマリアに喜びや苦しみを委ねるべくここを訪れます。この教会は貴重な芸術作品の宝庫というばかりではなく、今でもなお宗教的な儀式的場としての役割も果たしています。

私たちはこの大切な物語が将来に語り継がれていくことの要性を毎日のように実感しています。しかし私たちの微力だけでは難しい状況です。大聖堂の修復のためにはアントワープ州、フランダース政府から資金の援助を受けていますが、その他にも大聖堂維持費だけで年間 150 万ユーロが必要です。ですから皆様からいただく入館料は欠かせない収入源です。私たちは年間約 320,000 人の人々をお迎えし、この事な建築、美術品をご覧いただいております。ここは光と石が物語りを伝える空間、どうかすばらしいひと時をこの大聖堂でお過ごしください。

首席司祭 ウィルフリート・ヴェルハールト



## 総合案内

### 礼拝:

日曜日および祝祭日 9 時、10 時半(聖歌隊とオルガン演奏)、  
12 時(オルガン演奏)、17 時  
土曜日 16 時(オルガン演奏)、17 時(オルガン演奏)  
平日 18 時 聖ヨハネ礼拝堂にて(入り口は Groenplaats 21)

### 見学時間:

月曜日-金曜日 10 時から 17 時  
土曜日 10 時から 15 時  
日曜日および祝祭日 13 時から 16 時

### ガイドングツアー:

大聖堂ボランティアによる大聖堂案内

#### ・個人

月曜日-金曜日 11 時、14 時 15 分  
(7 月半ばから 8 月末 11 時、14 時 15 分、15 時 45 分)  
土曜日 11 時、14 時 15 分  
日曜日および祝祭日 14 時 15 分  
(7 月半ばから 8 月末 13 時 15 分、15 時)

7 月半ばから 8 月末の間は上記の時間にフランス語、ドイツ語、英語、イタリア語、スペイン語のガイドも行われます。その他の期間、時間帯については下記にお問い合わせください。

#### ・グループ

グループの訪問はできる限りあらかじめ下記の大聖堂案内所にお知らせください。各グループの興味関心のあるテーマに沿った専門的なガイドングツアーも可能です。

### 問い合わせ:

Groenplaats 21  
2000 Antwerpen  
Tel.: +32 (0)3 213 99 51  
Fax: +32 (0)3 231 86 17  
info@dekathedraal.be  
www.dekathedraal.be

Publiek - Christen Dew / De Kathedraal, Ompgaven 21, 2000 Antwerpen

Copyright Design - Studio Nij / De Dierker - www.nij.be © August - Architectuur van Antwerpen

# De Kathedraal

O.-L.-Vrouwekathedraal  
Antwerpen



# De Kathedraal

O.-L.-Vrouwekathedraal  
Antwerpen

今現在大聖堂の建っている場所には 10 世紀にはすでに聖母マリアを称える小さな礼拝堂が建っていました。

この礼拝堂は 1124 年の小教区設立後にはより大きなロマネスク様式の教会へと建てかえられました。さらに 1350 年から 1520 年、170 年という歳月を費やしネーデルランド(ベルギー北部とオランダを合わせた地域)で一番大きなゴシック教会(現在の大聖堂)が建てられました。初めは 5 身廊でしたが後に 7 身廊へと拡張されました。

1559 年のアントワープ司教区の設立に伴い、この教会は大聖堂に格上げとなりました。

この大聖堂はブラバントゴシック建築の傑作ですが、その長い歴史の中ではさまざまな災難に見舞われたため、建築当時の姿をそのままに留めているわけではありません。

1533 年には火事により大部分が焼失してしまいました。

1566 年と 1581 年の偶像破壊活動の際にはかなりのダメージを受け、フランス革命軍がこの一帯を征服した 1794 年にもまたひどく略奪、破壊されるという憂き目に遭いました。

しかし大聖堂はこのような逆境も常に乗り越えてきました。

1585 年以降アントワープがスペインの支配下にあった時代にはバロック様式の調度品が多く備えられました。18 世紀の終わりからフランスの支配が終わった 19 世紀初めにはネオゴシック様式の内装が多量に取り入れられました。20 世紀の終わりには科学的な分析、手法も用いた修復が始まりました。修復は西側の壁、正面入り口、塔から始まり、続いて内装、身廊、内陣、現在は内陣を囲む礼拝堂と外壁の修復が待たれます。

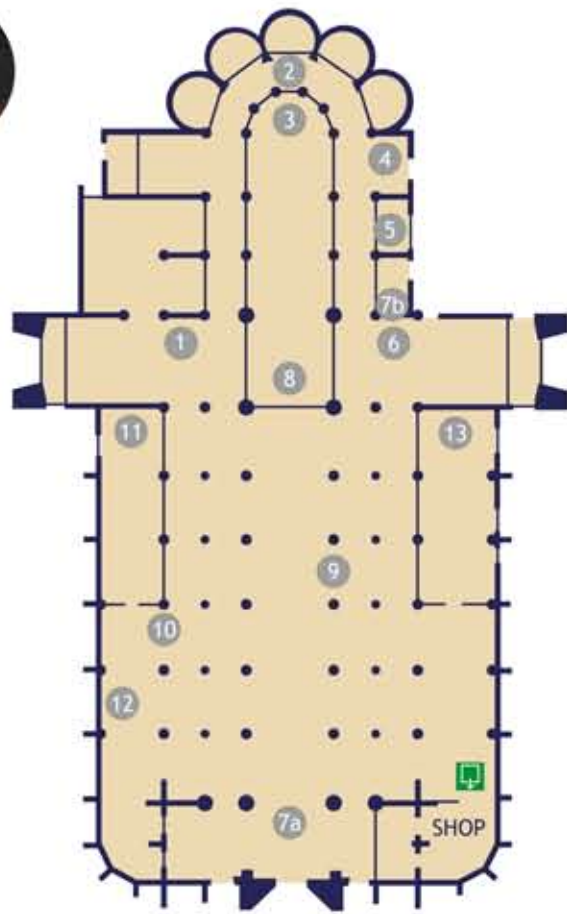
日本語



この大聖堂では、最も才能に溢れた最もその名を知られたアントワープ出身のバロック芸術家、ルーベンスの作品

4点を鑑賞することができます。

この17世紀の傑作4点のうち3点は初めからこの大聖堂のために描かれ、もう1点はナポレオン時代の後に大聖堂に置かれることとなりました。



このパンフレットでは大聖堂の代表的な芸術作品を簡単に紹介しています。より詳しい解説等についてはショップで販売しているさまざまな出版物をご利用ください。

1

キリストの昇架 (1609-1610)  
(パネル、中央パネル 460×340 cm、左右パネル 460×150 cm)  
ペーテル・パウル・ルーベンス (1577-1640)

この「キリストの昇架」はもともとは聖ワルブルヒス教会（今はすでに取り壊されなくなりましたが、当時はステーン城の近くに建っていました）の主祭壇のために描かれたものです。1816年以來この聖母大聖堂を飾っています。ルーベンスはこの「キリストの昇架」を描くにあたりイタリア芸術を手本としました。主祭壇をはさんで対を成している「キリストの降架」(⑥番)と比べると、キリストの刑という出来事における順序と同様、その製作年も「キリストの昇架」の方が数年早く描写のスタイルにも両者の間には違いが見られます。

2

聖母の死 (1633) (キャンバス、500×325 cm)  
アブラハム・マティセンス (1581-1649)

この主祭壇裏側にかかる祭壇画は、ルーベンスと同時代の画家アブラハム・マティセンス (1581-1649) によって 1633 年に描かれました。これは大聖堂の守護聖人である聖母マリアを称える3点の絵画のうち1点です。その他の2点はルーベンスの「聖母被昇天」(③番)、交差部ドームのホルネーリス・シュフットの「聖母被昇天」(⑧番)です。



3

聖母被昇天 (1626) (パネル、490×325 cm)  
ペーテル・パウル・ルーベンス

教会参事会の長老ヨハネス・デル・リオ(この祭壇の費用を支払った人物)がルーベンスと新しい祭壇製作の契約を結んだのは1619年でしたが、実際に着手されたのは1625-1626年のことでした。祭壇製作にかかる大部分の作業はこの場所で行われました。明るく鮮やかな色使いがダイナミックな躍動感をさらに際立たせています。

4

聖具室入口の壁画 (15世紀初め)  
作者不明

これは南ネーデルランドで15世紀に描かれた希少な壁画の一つです。テーマは「悲しみの人」で、以前の割礼礼拝堂の壁画を飾っていました。

5

キリストの復活 (1612)  
(パネル、中央パネル 138×98 cm、左右パネル 136×40 cm)  
ペーテル・パウル・ルーベンス

アントワープの有名な印刷工、ブランタン・モレトウス家のヤン・モレトウス、マルティナ・ブランタン夫妻の墓所のためにルーベンスによって描かれた祭壇画です。中央パネルにはキリストの復活、左右パネルには夫妻の守護聖人(洗礼者ヨハネと聖マルティナ)が描かれています。

6

キリストの降架 (1612)  
(パネル、中央パネル 421×311 cm、左右パネル 421×153 cm)  
ペーテル・パウル・ルーベンス

このルーベンスの世界的に有名な三連祭壇画は大聖堂内の射手ギルドの祭壇のために描かれた。このギルドの守護聖人、イエスを肩に乗せ川を渡る聖クリストフォロス(キリストを担う者という意)は左側パネル裏に描かれています。その他のパネルに描かれている人々も全てキリストを担う者達であり、それにより聖クリストフォロスを暗示しています。均衡と調和の取れた構成のなかに生き生きとした人物表現、落ち着いた色彩が際立ちます。

7

a) シュヘイヴェンオルガン (1891)  
(高さ 14.4 m、幅 10.5 m、奥行き 5 m)  
シュヘイヴェン

オルガンケース (1657): エラスムスII・ケリヌス (1607-1678)  
彫像: ペーテル・ヴェルブルッヒエン(父) (1616-1686)

1891年にブリュッセル出身のビエール・シュヘイヴェンは新しいオルガンを製作し、もともとあったバロックスタイルのオルガンケース(聖セシリアと天使の彫像によって飾られている)に設置しました。これはベルギーを代表する最も優美なオルガンのひとつです。このオルガンの独特なシンフォニーの音色、優れて詩的な響きは19世紀、20世紀のオルガン楽曲の演奏に適しています。このオルガンには4つの鍵盤とペダル、90の栓、5,770のパイプがあります。

b) メツェレルオルガン(1993)  
(高さ 12.2 m、幅 4.3 m、奥行き 3.45 m)  
メツェレル

このオルガンはスイスのメツェレル社によって作られました。特にバッハとその時代のフランスの作曲家達の楽曲演奏を目的としています。パイプの特殊な構造のために演奏の方法次第ではその他の時代、スタイルの楽曲をも美しく奏することができます。

8

聖母被昇天(1647) (キャンバス 直径約 580 cm)  
ホルネーリス・シュフット(1597-1655)

大聖堂の守護聖人聖母マリアの昇天を称えるものとして、ルーベンス時代後期の画家、シュフットは大聖堂の翼廊と身廊の交差部の塔(高さ 43メートルの位置)にこの絵画を制作しました。優れた遠近表現法のおかげで、この塔が無限に高く伸びる天への入り口であるかのように見えます。

9

説教壇(1713) (檜 高さ 7 m、幅 5.2 m、奥行き 3.45 m)  
ミヒール・ヴァン・デル・ヴォールト(1667-1737)

この説教壇はもともとはヘーミクセムにある聖ベルナルドゥス修道院のために製作されたものですが、1803年に大聖堂が買い取り、以来ここに置かれています。支柱と桶のような形をした壇の装飾は、神の言葉を全世界に広げることの意味を意味しています。この説教壇は自然主義バロックの好例です。

10

聖母子像 (1350頃)  
(大理石 高さ 127 cm、幅 40 cm、奥行き 27 cm)  
マースランド派

このカララ大理石の彫像は「マースランド地方の大理石彫刻の巨匠」と呼ばれていたリエージュの彫刻家の1350年頃の作品ですが、それよりだいぶ後の1866年、おそらく個人からの寄付によってこの教会に置かれるようになりました。洗練された優雅な姿勢と衣装のドレープ、愛情と人間味があふれるポーズは14世紀の宮廷文化を反映しています。

11

アントワープの聖母(16世紀)  
(くるみの木彩色 高さ 180 cm、幅 52 cm、奥行き 30 cm)

アントワープの聖母の彫像は大聖堂内でもとりわけ大きなマリア礼拝堂に立っています。1566年の偶像破壊の以前にすでに大聖堂にあったものと思われる。母(マリア)と子(イエス)は穏やかさと同時に王者としての威厳を見せています。この像は地球と三日月の上に立ち(天の統治者を意味する)輝きを放っています。周りには4人の福音者のシンボルも見られます。

12

告解所(1713) (檜 一組につき 高さ 3.46 m、幅 7.8 m、奥行き 1.2 m)  
ギュリルムス・イグナシウス・ケリックス (1652-1719)  
ミヒール・ヴァン・デル・ヴォールト (1667-1737)

この開放式告解所は中央身廊の説教壇と同じように、もともとはヘーミクセムの聖ベルナルドゥス修道院にありましたが、フランス革命の後大聖堂に置かれるようになりました。間仕切り壁の前には12使徒と改悛、良心の啓発、神の恩恵などそれぞれ美德を表す12人の女性達が並んでいます。

13

契約の櫃型の聖櫃 (1710-1712, 1753)  
(木、真鍮金箔張り 高さ 約 200 cm、幅 132 cm、奥行き 85 cm)  
ユドークス・イグナシウス・ピカヴェト  
ヘンドリック・フランス・ヴェルブルッヒエン (1654-1724)  
ヘンリクス?・ド・ポッテル (1725-1781)

この後期ロココスタイルの聖櫃は契約の櫃の形をしています。周りの真鍮の浮き彫り装飾は聖体拝領の場面を表しています。これは大聖堂の尊者の礼拝堂(秘跡礼拝堂)内の諸聖人の秘跡信心会の祭壇のために作られたもので、今もなお当時と同じ場所に置かれています。

